

⑤ Int. Cl.²
F 16 L 19/08

⑥ 日本分類
65 A 31

⑨ 日本国特許庁
公開実用新案公報

⑩ 実開昭51-3917

庁内整理番号 7159-26

③ 公開 昭51(1976). 1.13

審査請求 未請求

④ くい込み式管継手

⑪ 実 願 昭49-74850

⑫ 出 願 昭49(1974)6月27日

⑬ 考 案 者 高市恒和
高槻市寿町8の1

⑭ 出 願 人 大洋金属工業株式会社
大阪市西淀川区姫島3の8の23

⑮ 代 理 人 弁理士 石山博 外1名

⑯ 実用新案登録請求の範囲

継手本体と、該本体と螺合する締付ナットの内方にスリーブを介在させて前記ナットの締付けによりスリーブを被結合用管の外周に食い込ませて継手本体と該管の結合を行うものにおいて、前記管を嵌合するスリーブ3をほぼ太鼓胴状に形成せると共に、該スリーブ3の一方端を継手本体1の内方円錐面1aに係合させ、且つ、他端をナット2の内方円錐面2aの角度より鋭角に形成し、又、少なくとも該スリーブ3の内周両端に刃(5

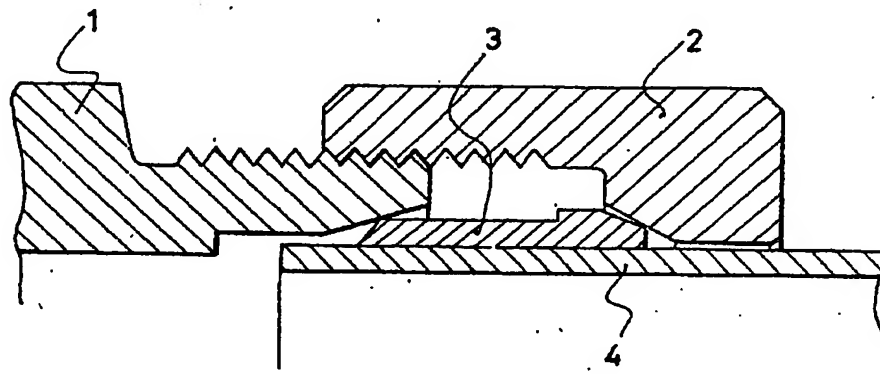
及び8)を形成させると共に、継手本体側の刃5を前記継手本体内方円錐面1aに対してほぼ直角に形成し、且又、他方端の刃8の刃先径を前記刃5の刃先径より大径に形成し、もつて、継手本体1に螺合されたナット2の締付に伴つて本体1とナット2の内方円錐面(1a及び2a)とスリーブ3の両端で作用する軸方向の締付力による径方向の分力によつてスリーブ3を径方向に収縮させて前記刃(5及び8)を管に食い込ませて継手本体1と管の結合を行うように形成して成るくい込み式管継手。

図面の簡単な説明

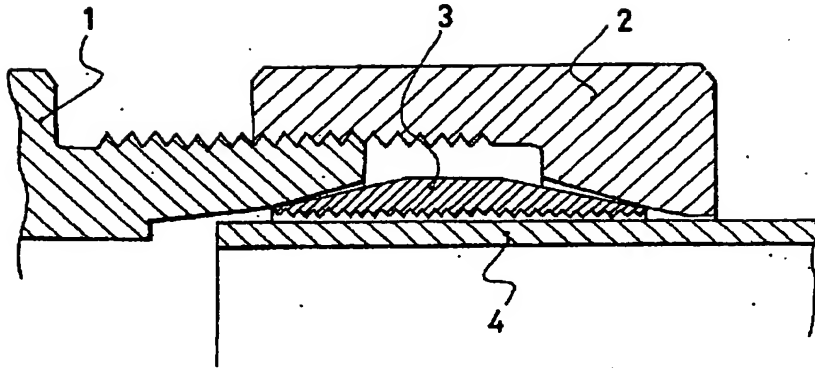
図中、第1図及び第2図は夫々従来のくい込み式管継手を示す要部断面図、第3図は本案のくい込み式管継手を示す要部断面図である。次に、本案の主要部の符号について説明する。

1……継手本体、1a……継手本体1に設けた内方円錐面、2……締付ナット、2a……締付ナット2に設けた内方円錐面、3……スリーブ、5、8……スリーブ3の両端に設けた刃。

第1図



第2図



第3図

